



特集

知ること身近な存在に 恵庭で暮らす外国人

問合せ先 企画課 ☎ 0123-33-3131(内線 4710)

20代は10人に1人が外国人

年々増えている「外国人住民」。市では6月末現在、人口70,251人のうち外国人住民は1,262人。人口に占める外国人の割合は約1.8%で、市民100人のうち、およそ2人が外国人です。しかし、ある年代だけは、外国人人口の割合が突出しています。それは20代。20代の総人口7,129人のうち、外国人は760人。割合は約11%に跳ね上がり、10人に1人は外国人という状況です。

20代の外国人人口が多い理由を探るために、在留資格を見てみると、市内外国人の在留資格トップ3は、①技能実習（1号～3号、計340人）、②留学（326人）、③特定技能（1号・2号、計233人）。市内に住む外国人1,262人のうち、899人は勉強をしたり、働いたりするために恵庭に住んでいるということで、それであれば学び盛り・働き盛りの20代が多いのも納得です。

背景に日本人労働者不足

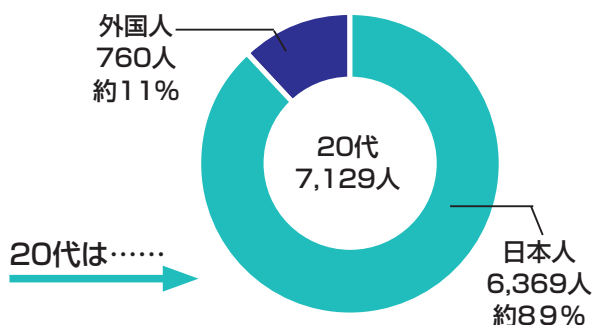
働き先は、市内の工場や介護施設、建設業、農

業など、多種多様です。外国人労働者を受け入れている会社に話を聞くと、共通して語られるのが「日本人労働者が集まらない」ということ。外国人労働者が人手不足を補っていることがうかがえます。在籍している外国人は、「簡単な日本語なら話せる」という人が多いため、先輩外国人が新人の「世話役」として、仕事面だけではなく生活面もフォローしているケースも多く見られます。

「働き手」としての外国人は、少子高齢化が進む日本には無くてはならない存在であり、恵庭市も例外ではありません。多くの会社の担当者はこう言います。「私たちの生活は、既に外国人労働者がいないと成り立たない分野が出てきていることを、みんなもっと知るべきです」。外国人住民も、共に働き、共に生活する市民。外国人住民を当たり前のものとして受け入れ、みんなが住みよい地域にするためには何が必要か、考えてみませんか。



恵庭市の人口と日本人・外国人の割合				
人口	男	女	合計	割合
日本人	33,521 人	35,468 人	68,989 人	98.2%
外国人	594 人	668 人	1,262 人	1.8%
総人口	34,115 人	36,136 人	70,251 人	—



これからも恵庭で働き続けたい

ベトナムから来ました。兄もこの会社で働いていて「日本での仕事はいい」と聞いたので、6カ月間日本語と日本の文化や風習を学び、職種のトレーニングを受けて、恵庭に来ました。

最初は、日本語でコミュニケーションをとることが本当に大変でした。でも、会社の人みんな親切で、仕事のことやいろんなことを、いっぱい教えてくれます。恵庭のまちは、きれいなところが気に入っています。食べ物もおいしいと感じています。

今は、機械に乗って穴を掘ったり整地をしたりする仕事をしています。仕事が終わった後は、ベトナムにいる妻や子どもと、毎日電話で話しています。

これからも恵庭に住み続けて、この会社で働き続けたいと思っています。



ゲン ヴァン トウアットさん(29)

建旺興業(株)

地域の一員として交流を

全従業員22人のうち外国人従業員は6人で、全員ベトナムから受け入れています。2017年に3人受け入れたのが最初。そのうちの1人がトゥアットの兄で、今でも働いてくれています。外国人従業員を受け入れたのは、人手不足というところが大きく、特に建設業界は、日本の若者が集まらないというのが顕著なのではないかと思っています。

コロナ前は、会社として地域のお祭りに参加したりして、地域の人たちとの交流の場もあったのですが、今はそういった機会がないのが気になっていま

す。せっかく日本に来て働いてくれているので、コミュニティの一員として地域に溶け込んでほしいし、お互いに頼りあえる関係になればいいと思っています。



細田 尚彦 代表取締役

もっと農業も日本語も勉強したい

ネパールから来ました。今年で3年目です。ネパールでは、学校で農業の勉強をしたあと、農業の仕事をしていました。もっといろいろなことを勉強したいと思い、日本に来ました。

恵庭に来て驚いたのは、冬の寒さと雪の多さです。ネパールも雪は降りますが、ここまで多くはありません。

余湖農園では、ハウスの管理を任せてもらっています。大変ですが、ネパールで見たことのない野菜やくだものがたくさんあり、難しいですが、とても楽しいです。仕事が休みの日は、近くのスーパーで買い物をして、料理をして過ごしています。

あと数年は日本にいられるので、恵庭に住み続けて、農業も日本語も、もっと勉強したいです。



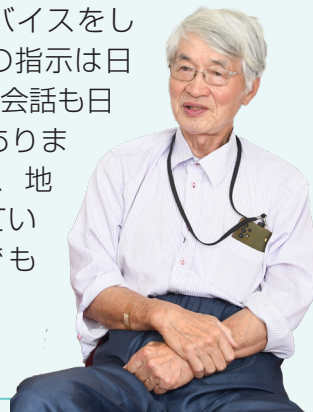
ティン ヒクマトさん(26)

(有)余湖農園

無くてはならない外国人労働者

現在は、6カ国から73人の外国人が働きに来てくれています。日本人のパート社員は20人いますが、最高齢は80歳。平均年齢も70歳を超えています。野菜農家は、稲作や畑作のように作業を機械化することができません。多くの人手が必要なのですが、募集しても日本人は来ません。そんな中、日本で長く働いてくれる外国人労働者は、無くてはならない存在です。

農園では多くの外国人が一緒に働いているので、長く勤めている人が日本語を教えたり、生活のアドバイスをしたりしています。仕事の指示は日本語で行いますし、日常会話も日本語でほぼ困ることはありません。また昨年からは、地域の草刈りにも協力していて、周囲からも喜んでもらっています。



余湖 智 取締役会長